

耕平さんかわら版

皆さん、こんにちは。気象庁によれば、今年の夏は「猛暑」ではなく「激暑」だそうです。「激暑」という言葉があることを初めて知りました。くれぐれもご自愛ください。

現在、内閣府副大臣として仕事をさせていただいていますが、内閣府の担当業務はいろいろあります。例えば、都市政策もそのひとつ。現在、十年前に策定された都市再生基本方針の見直し作業に取り組んでいます。

ある研究機関が、アジアの都市の投資対象としての有望度の順位を発表しました。東京は上海、香港、北京、ソウル、シンガポール、シドニーに次いで七位。出遅れています。

日本の都市政策に欠けているのは五十年後、百年後を見越した首尾一貫した構想。東京駅周辺、新宿副都心などの特定地域の再開発

ばかりが繰り返され、東京全体の未来構想が共有されていません。

そもそも、かつて東京(江戸)は世界に誇る都市建設の成功例でした。幕末に江戸を訪れた英國人口バ

ート・フォーチュンは「江戸の美しさは世界のどの都市も及ばない」と絶賛。明治時代のお雇い外国人は異

口同音に東京を「ガーデンシティ」、日本を「ガーデンアイランド」と呼びました。

百年経つてオスマンの構想は実現し、今やパリは花の都。日本の都市政策にもそうした長期ビジョンが必要です。

東京だけでなく、名古屋や大阪のような大都市、それ以外の地方都市についても、それぞれの特性と地域の個性を活かす長期ビジョンが必要です。

最近は大阪府の橋下(はしまと)知事とも仕事でいろいろとご協力いただいています。橋下さんともよく議論して、名古屋や大阪、さらには全国の都市や街がもっと魅力的になるよう頑張ります。

※



発行編集部
大塚耕平事務所
☎052-757-1955
Kouhei@oh-kouhei.org



かわら版執筆者 大塚耕平

1959年生まれ。日泰寺の地元、田代小学校、城山中学校を卒業。その後、旭丘高校、早稲田大学をへて、日本銀行に18年間勤務。2001年から参議院議員。現在2期目。地元の覚王山に事務所を開き、故郷 覚王山の地元振興と歴史・文化遺産の継承・復興のために「弘法さんかわら版」を執筆しています。今年で足かけ9年目。

日銀時代に母校の大学院博士課程を修了(学術博士)。現在は早稲田大学と中央大学大学院の客員教授も務めています。

2009年9月18日鳩山由紀夫内閣の内閣府副大臣を拝命。現在は菅内閣の内閣府副大臣。金融、郵政改革、地域主権推進、拉致問題、構造改革など15の担務を持つ。

毎月21日、覚王山日泰寺は

「弘法さん」

「かわら版配り」ボランティア募集!

21日の8:40~10:30頃山門へおいでください。
お問い合わせ:052(757)1955 大塚耕平事務所(電)
佐久間)



*ビリケン…尖った頭と吊り上がった目が特徴の子供の姿をしている幸運の神の像。日本では大阪の二代目通天閣にあるものが有名で、「ビリケンさん」の愛称で親しまれ、特に足を搔いてあげるとご利益があるとされている。